

令和元年より MPH コースに入学、令和 3 年に修了いたしました藤本竜平と申します。これまで後期研修医から主に関東で救急(3 次、2 次)・集中治療ならびにコース教育、内科(とくに循環器内科)の臨床に従事してきました。大学卒業後 10 年となり地元岡山県に戻り、MPH 入学と同時に大学病院での臨床も継続しています。

これまで日々の急性期診療においては、目の前の患者への臨床が主で、疫学的視点や生物統計学の基礎は不勉強、ましてや積極的に学術論文文化などもせず・・・臨床を行ってきました。しかしながら、今後、私自身が岡山県地域医療に関わることを希望する中で、疫学的視点の重要性のみならず、医療政策分野の基礎も MPH コースに盛り込まれていること、岡山県にこのようなコースが存在していることは入学の強い後押しとなりました。

いざ入学してみると臨床を続けながら大学院生活を行う中で、多様なバックグラウンドを持つ方々と接し、「疫学は医学全般の基礎であり臨床医学に深く関わり、因果推論は疫学的思考と方法論の理解が必須、人から得られるデータで検証し、論文文化していく」という一連の流れを教えていただき、これまでとは全く異なる広く深い視点を得られていると実感しています。さらには社会疫学・地域医療・医療政策についても包括的に講義をいただける点も外せません。COVID 後の医療がどうなっていくかは未だ予測ができない状況ですが、指導いただく先生方は常に個人の進捗状況などを気にかけていただき、遠方で受講可能なオンライン講義、参加型であればハイブリッドであるなど多様な教育環境の提供があります。MPH コースでの学びを深めることは医療全体の現状をも反映し、無駄がないと感じます。

MPH コースは 2 年間という期間において、様々な講師陣、幅広い背景をもつ大学院生と出会うことも大きなプラスとなります。昨今の感染症流行を踏まえても疫学・衛生学は社会的に必要とされている分野であり、MPH コース修了により得られる視点はあらゆる面で今後生きるものと思われれます。